

GIS/RS/UAV 技術連携 および 陸域分野の課題

【基本的な考え方】

*Science has become an operational stage.
No more fund for beauty. (IGBP SAC-IV, 1995)*

- 問題解決の達成を共有した枠組みの中で、役割を果たす
⇒ 問題解決のための協働の営みの中でサイエンスを活かす
- 一般性、普遍性をベースに置き、その上にある個別性を重視
⇒ 地域を重視する

近藤昭彦

CEReS リモートセンシング複合研究領域

CEReS 衛星利用高度化プログラム

CU 地球生命圏科学専攻・地球科学コース

(環境リモートセンシング領域・陸域環境分野)

リモートセンシングのための画像解析システム、地理情報システム（GIS）、モデル・アプリケーション、等を整備

- 画像解析・地理情報解析用スペース
- ArcGIS（大学ライセンス）、ENVI、等のアプリケーション
- アーカイブされたデータとの連携
- 現場を歩ける研究者の養成
— 感じることを重視（レイチェル・カーソン）—

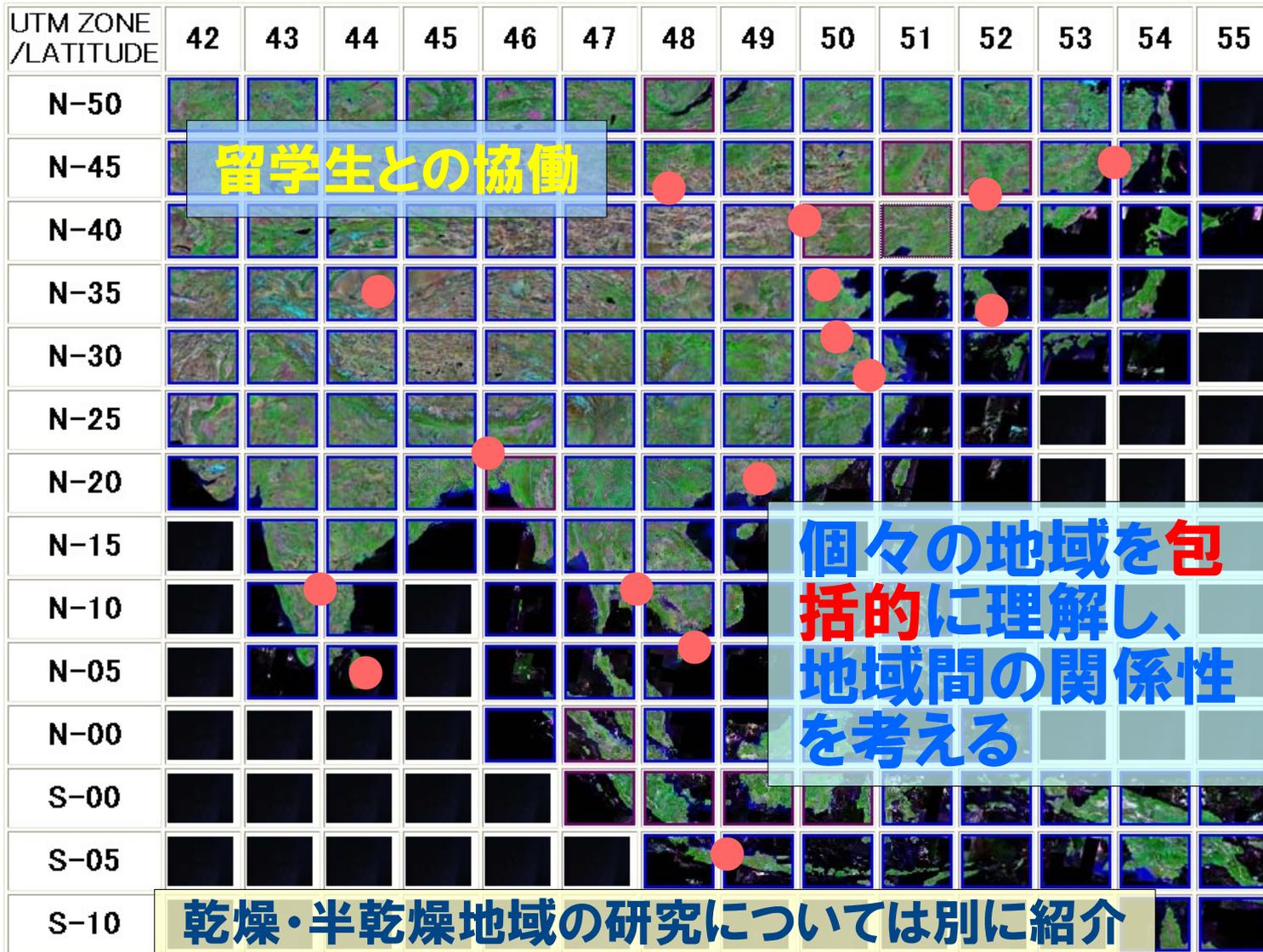
アジアの環境変動地域のモニタリング
（CEReS 発足当時に打ち出した課題）



世界をどう認識し、課題に対応するか



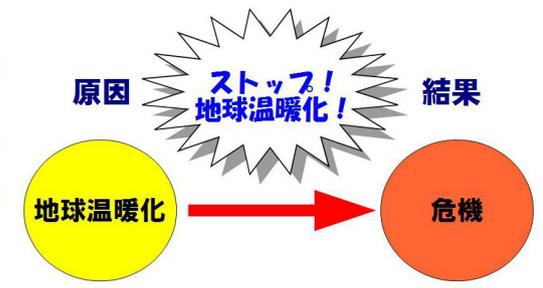
- ① 世界は相互作用する地域の集合
- ② 問題の共有 × 問題の解決の共有○



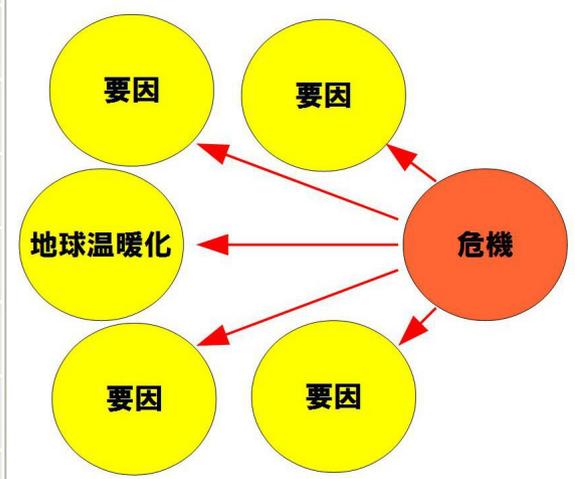
留学生との協働

個々の地域を包括的に理解し、地域間の関係性を考える

【問題の共有】



【問題の解決の共有】

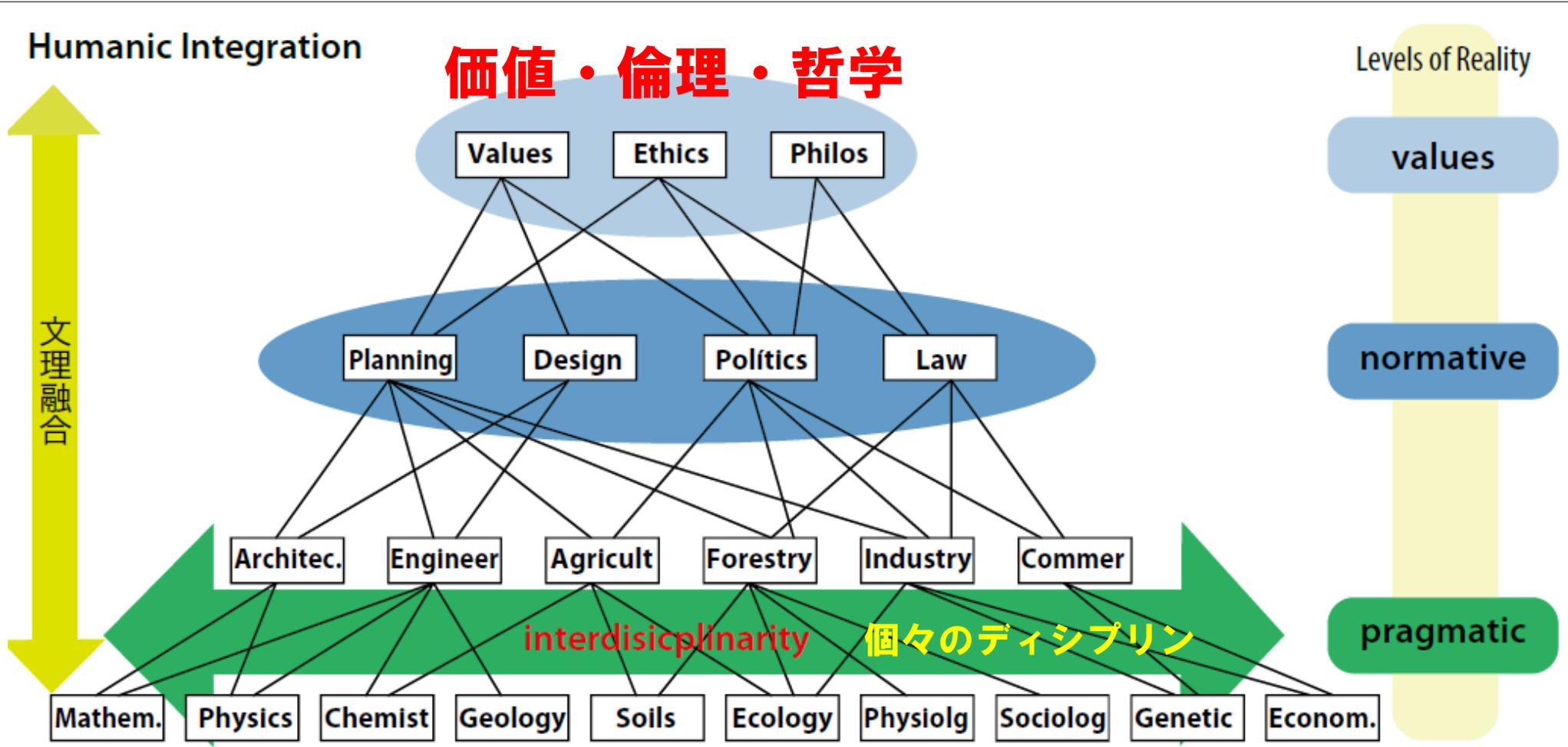


参画と協働による問題の理解と解決

近藤研究室で最近、研究対象地域として取り上げた地域

「Transdisciplinarity (超学際?)」の実現 問題に対峙した時のサイエンティストの態度

FE



トランスディシプリナリティー、地球研ニュース No.36 (原図 Max-Reef 2005,9)

- 地域を研究することの基にある姿勢は？ 価値明示的
- 異なる地域の考え方を尊重する グローバルの考え方

ステークホルダーとの協働

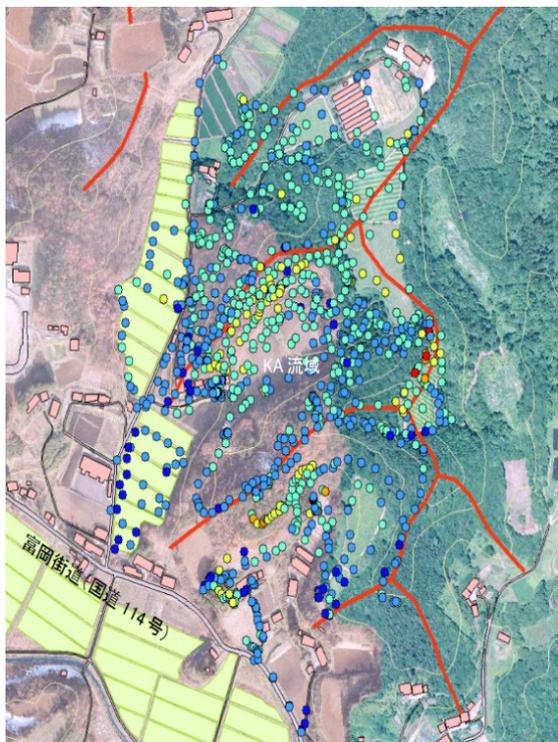
FE

- 閉鎖性水域における水問題(千葉県、印旛沼流域)
⇒ 自覚のないステークホルダー
- 放射能汚染地域における暮らしの回復(福島、阿武隈)
⇒ 当事者としてのステークホルダー



「りんどう」よろしく

避難区域における暮らしの復興を目指した住民参加・異分野協働の試みー千葉大学山木屋後方支援チーム



千葉大学有志と千葉大学と関係性のある方々のチーム

放射能モニタリング

UAV の利用

移行調査

放射能対策提案

マーケット復活

ITによる情報付加

新たな商品作物

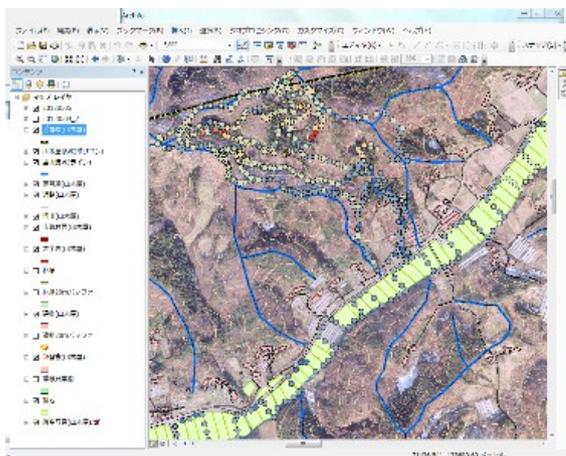
むらさき、天蚕

復興GIS(土地管理)

自然エネルギー

災害看護(健康)

...

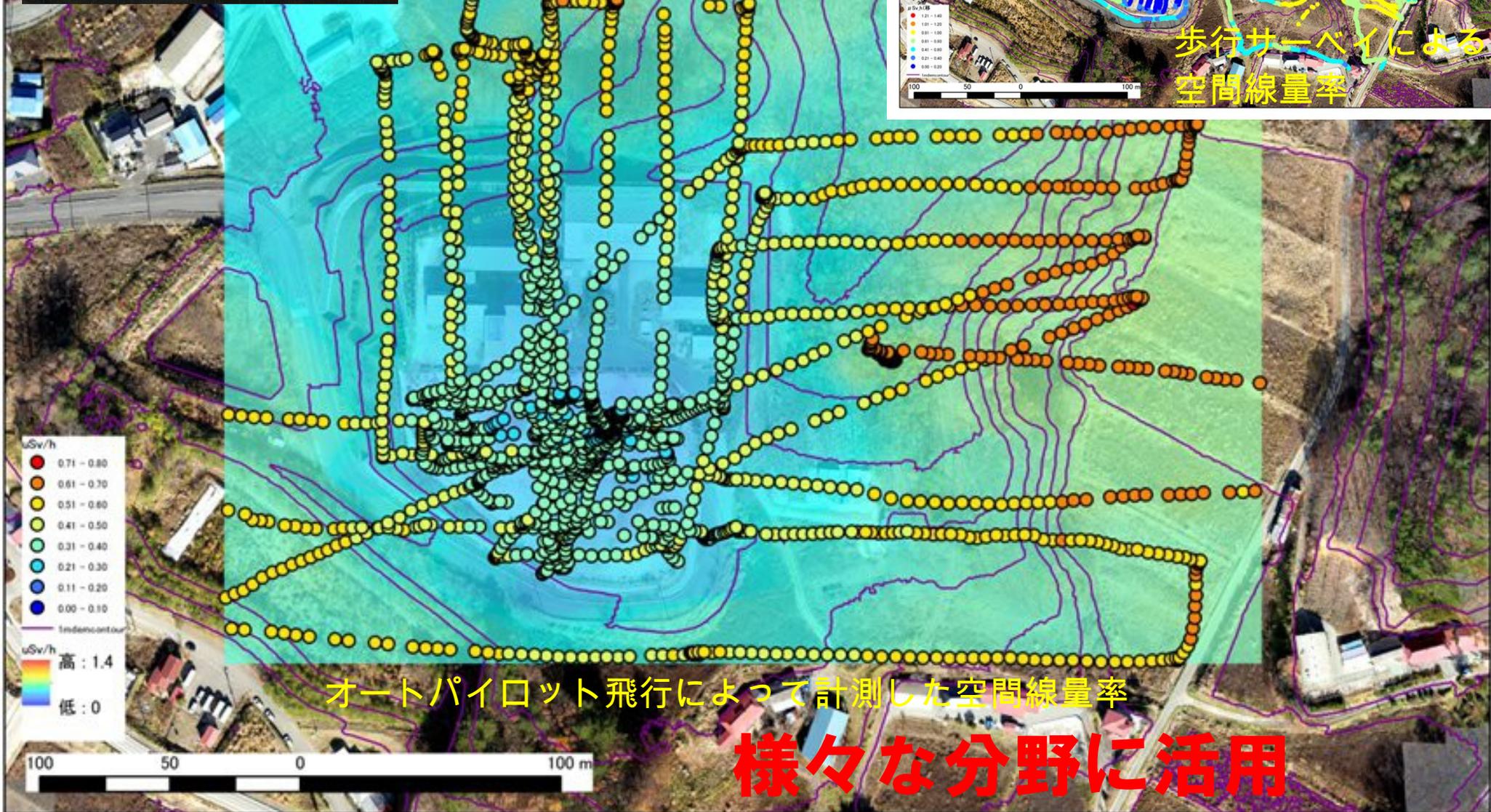
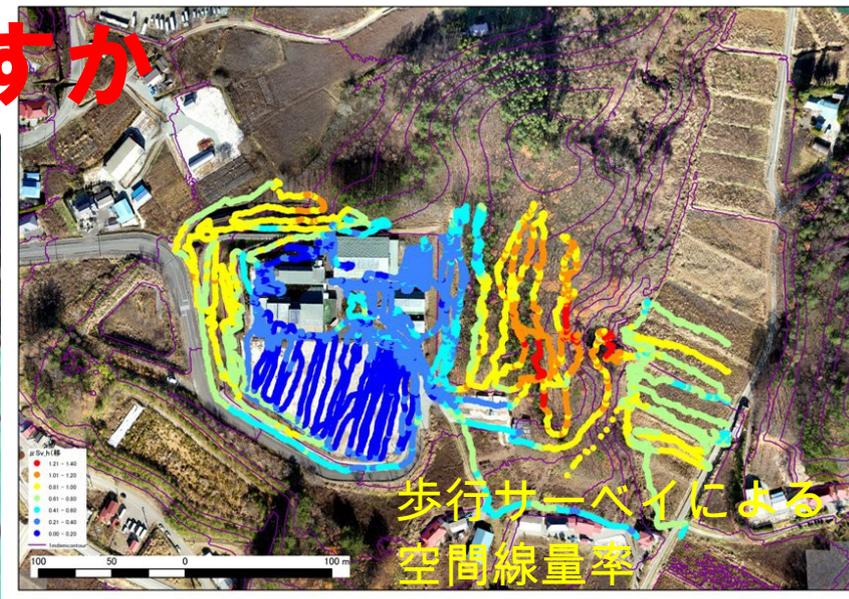


目的の達成の共有



科学技術の成果をどう活かすか

ラジコンヘリを使った近接RS



様々な分野に活用

環境問題—人と自然の関係性に関する問題— 問題の解決とは諒解の形成

共感

人と対峙し、問題を
“わがこと化”すること:
関係性の認識
(共感基準)

理念

めざすべき社会の
あり方を共有ある
いは尊重すること
(原則基準)

合理性

科学的合理性に
基づいた現象認
識による対策
(有用基準)

連携による新しい（？）サイエンスの実践